長野県塩尻市平出集落の特質

－伝統的建造物群保存対策調査から－

1　はじめに

長野県塩尻市平出は、松本盆地の南端すなわち木曾山脈北縁の山麓に位置する、中山道近傍の農村集落である。集落には、「本棟造」と呼ばれる長野県の中南信地方にみられる特徴的な形式の民家が残っており、独特の集落景観が形成されている。

建造物研究室では、2012、2013年度の２ヵ年で、長野県塩尻市より平出集落を対象とした伝統的建造物群保存対策調査を受託した。本稿では、調査であきらかになった集落の特質について、集落の基盤と建造物に焦点をあてて概観したい[1)]。

2　平出集落の基盤

平出集落は、南面に山を控えた台地にある。集落の西を画する比叡ノ山東麓に「平出の泉」が湧出し、これを源とする「渋川」の両岸に集落が形成されている。渋川は古来灌漑用水として下流の水田を潤し、泉に近い上流では平出集落の住民の生活を支えてきた。集落内の渋川沿いの各所には、「ドンド」と呼ばれる水汲み場もしくは洗い場が設けられ、現在でも利用されている。

集落と水との関係は、民俗信仰にも顕著にあらわれている。平出の泉の脇には「水神様」が鎮座するほか、近世に勧請されたとされる平出集落の鎮守伊夜彦社は、平出の泉の神を祀る古代の水王神社を起源とすると考えられている。また、集落各所には同姓仲間によって同族神が祀られる祝殿が残るとともに、庚申講、秋葉信仰、三峯信仰といった民俗行事が継承されている。

3　平出集落の伝統的建造物

調査対象区域には、伝統的な形式をもつ主屋が14棟あり、そのうち切妻造、妻入の典型的な本棟造の主屋は11棟ある。他に、本棟造に似た正方形に近い平面をもち妻入であるが２階の建ちの高いものが１棟、平入の主屋が２棟確認できた。

敷地構成　集落内の住戸の多くは、渋川に沿って蛇行する里道に面しており、敷地と道路との遮蔽は生垣、板塀などによって境界を明確に画する住戸が多い。主屋は、道路から15～20mほど後退させて配置する場合が多いが、敷地の最奥すなわち道路から30mほど引き込んで配置するものもある。敷地内には、主屋のほかに土蔵、

図Ⅰ-87　平出集落の屋根伏図

蚕室などの付属屋があるほか、庭門をもつ住戸もある。

建築年代　集落において棟札が残されていたのは１棟のみで、嘉永３年（1855）の年号が確認でき、この建物が年代判定の指標となる。また、主屋が安政２年（1850）に建てられたことを示す史料の存在を所有者が記憶している住戸が１軒ある。平出集落に現存する本棟造の建築年代の上限は18世紀末～19世紀初期、下限は明治10年代半ばと考えられる。

規　模　本棟造の特徴の１つは、大規模で正方形に近い平面をもつことである。調査対象のうち、平面規模の最大のものは間口８間、奥行７間であった。また、平入の主屋でも間口８間半、奥行７間あるものがあり、棟の方向は違うが本棟造と同様の規模と縦横比をもつ。

間取り　本棟造民家は、基本的に床上部は２列３室の６室とし、桁行の左右どちらか１列を土間とするものが多い。下手土間正面側には外壁側に３畳から４畳半程度の馬屋が設けられる。

床上部正面側通りは接客部で、中央列を下座敷とし、上手列を上座敷として床の間などを設ける。床上部桁行中央通りは一般に上オエ、下オエに分かれる。一方、最古の本棟造民家といわれる塩尻市の重要文化財嶋﨑家住宅（享保年間＝1716～1735）の平面は、この部分が上下に分化せず、これは古式を示す特徴とみられる。平出集落においては、この特徴を示す本棟造の主屋が１棟確認できた。

構　造　本棟造民家は、柱が４寸～４寸５分の正角で、土間、床上部境の内部部屋境に７寸～９寸角の大黒柱２本を建てる。平面の中央部のオエ廻りを差物でかため、桁行下木、梁間上木として全体におおむね１間おきに丸太の梁を架ける。

正面側には両端から合掌状の登梁を架けて母屋桁を支えるものがある。これは発達した工法と考えられ、１つの年代指標となる可能性があるが、重要文化財堀内家住宅（18世紀末～19世紀初期）でも用いられており、断定することは難しい。

立　面　本棟造は、梁間の深い大きな妻面を正面に向け、梁間いっぱいに庇を取り付けるのが特徴の１つである。下座敷前面は式台玄関が取り付き、舞良戸４本引違とするものが多い。２階は妻梁上にほぼ１間ごとに束を立て、２段もしくは３段の貫を化粧でみせる。表２階がある場合は、中央部に１間ないし４間幅の出格子を取り付ける。特徴的な棟飾りである雀踊りは、一般に本棟造の特徴の１つであるが、調査対象の中には雀踊りを付けないものもある。

４　おわりに

平出集落は、山並みや水系といった自然地形、血縁・地縁のつながりによる民俗行事など有形無形の基盤の上に、江戸時代後期から明治時代前期にかけて特徴的な形態をもつ民家が出現し、今日まで集落景観が受け継がれてきた。このような歴史の重層性をもつ、伝統的建造物群と周囲の環境が一体となった優れた風致が、平出の本質的な価値である。今後は、この価値を適切に継承するための保存計画の策定が求められる。　**（松下迪生）**

註

１）調査結果の詳細は、奈文研編『平出―伝統的建造物群保存対策調査報告―』（塩尻市教育委員会2014）で報告している。

図Ⅰ-88　敷地脇に「ドンド」を設けた本棟造民家

図Ⅰ-89　平出集落で最古と考えられる本棟造民家